제46호 1905. 3. 15.

(可認物便郵種三第日五廿月八年七十三治明)

朝鮮日報

紀元二千五百六十五年 光武九年 明治三十八年三月十五日 乙巳二月九日

大會戰と乃木將軍

難攻不落の聞え高く金城湯池の固めと天嶮 [illegible] 露軍が經營の根據地として十萬の大兵が [illegible] 最後の包圍をなすとも斷じて陷落の期なかるべしと世界の戰術家に罵はれし旅順の要塞を陷れ戰名宇内に隱れなく殊に敵將ステッセルの開城に對し飽まで寛厚の大度を示し智あり仁あり勇ある措置に内外の人士を驚はしめ日本武士道の化身と世界軍人の崇拜と渇仰の的となりつゝある我第三軍司令官乃木將軍は此度更に亦奉天の大會戰に參加し旅順攻擊に用ひたる重砲を以て稀有の大功を奏しつゝあるが近く某地に於て [illegible] 其胸中を語られたる一節を聞くに今更將軍の武烈を新にする心地して [illegible]

[illegible]

將卒を殺せり然れども彼が最愛の子息を貳人まで戰死せしめしを以て國民に對し多く部下

余は到底生還するの [illegible]

考なし今 [illegible]

々切々人をして座に耐へざらしむ斯れば將軍は [illegible]

[illegible]

各地通信

京城通信（三月十一日午後九時着）

[illegible]

錦江の航運（三）

[illegible]

征行の日記

[illegible]

日報文壇

和歌

[illegible]

俳句

[illegible]

武勇の譽

（十四回）

[illegible]

朝鮮日報

公報

● 捕獲品　確報

● 興京方面敵死傷（十三日午後十一時公報）

三月十三日の報告に依れば興京方面に於ける我軍の戰利品は小銃二千三百挺、彈藥六十萬發、砲彈參千發、弓矢及刀劍、被服等にして、同方面に於ける敵の死体千二百、捕虜八拾、此の方面に於ける敵の死体は約貳万なるへし

掃敵後報

各方面にて敵を撃退北進せる我兵は［illegible］

全滅師團

死体は八百以上捕虜七拾の言に依れば第［illegible］師團の如きは殆と全滅せり

［illegible］

各地通信

● 門司特報（十一日午後六時發）

華族砲兵隊勇戰　［illegible］分捕砲隊にして

本日當地に輸送されたる某俘虜將校の言に依れば［illegible］

● 之れ皇室の藩屏たる名門華族砲隊

［illegible］

約六時間

［illegible］

躍雀［illegible］

人生の大一壯の［illegible］

歷々指摘す戰友の慘状

［illegible］

數の死傷者

［illegible］

雜報

● 京釜鐵道の設備　京釜鐵道線は去る昨年開業以來着々好成績を收めつゝあるが車兩不足の爲め運轉回數も少なく殊に將若い扶桑の二隧道工事完成せずして假線に由りつゝある爲め直通列車の東行は大邱に西行は大田に碇泊せざるべからざるの不便ありされど工事は着々進行しつゝありて［illegible］扶桑の二隧道は最も貫通し目下煉瓦巻工事中に係り本月下旬若くは四月下旬には完成する筈にて出來上は直ちに假線を除き本線運轉を開始すると同時に全線の列車運轉方法を改善する由なれば［illegible］

● 所長會議　［illegible］郵便局に於て事務打合の爲め［illegible］

● 兒童の貯金奬勵　［illegible］

● 鍋島嶺南［illegible］

○ 豫算編製會議　當居留民役所にては來年度豫算編制に就て昨日各課長及學校長病院長の會議を開く

● 韓語囑託教師の留學　當公立小學校韓語囑託教師朴從植氏は日本へ留學する筈にて一昨日辭職せられたり後任者は目下撰定中なりと

● 釜山の航路船　［illegible］株式會社所有汽船若津丸は客年四月より佐［illegible］

● 宗教界の寂寞　［illegible］

○ 大田歸來者の談　昨朝太田よりの歸［illegible］

● 漁業の調査　福岡筑豐水產組合長黒木太郎今評議員太田種次郎の兩氏は昨日入港［illegible］

○ 唐津組の開始　九鐵唐津組は今回京釜鐵道會社の特許を受け驛停車場構內人力車の營業を開始し一定の賃錢を以て旅客の便を計る由なれば土地不案內の人にても安全に乘車するを得べしと

○ 石鹼製造着々初まらん　當港商濱町の［illegible］

○ 商品陳列場の狀况　［illegible］

○ 素麵及び凍豆腐の製造　當港の某商［illegible］

○ 燒失後の建築　［illegible］

○ 車夫の競爭と辨天組　［illegible］

○ 警部の來韓　本邦警部六名十四日神戶出港の便船に乘船し來韓し多分丸山顧問の配下に付くべしと

▼公私人▼

△ 仁川商業會議所の新書記長　大阪每日新聞賣部記者たりし石川良造氏は今回故中村忠吉氏の後任として仁川商業會議所書記長に招聘せられ近々渡韓赴任の筈なりと

△ 井上雅二氏の出發　大池に滯在中の朝鮮日々新聞社社井上雅二氏の明朝仁川に向け出發の筈なり

△ 大庭視察員の轉任　當港水產組合本部の巡邏視察員大庭弘雅氏は今回仁川支部に轉任したり

△ 石森氏の來釜　朝鮮海水產組合本支部長石森氏は去る十二日事務打合せの爲め來釜せられ不日歸浦の由

大商店訪問記（五）

▲ 岡田時計店（幸町）

當港に入るものは先づ岡田時計店なる一大商店あることを知り且つ長く記臆せざるべからず岡田氏は同店を今日の如き隆大にせんが爲めに種々の艱難困苦を經過したるなり［illegible］

▲ 武內支店（本町）

同店は大坂の支店にして中西氏專ら經理の任に當られ居る［illegible］

明日本紙日曜日に付休刊

朝鮮日報

●宮中の振動（崔益玄許爲の捕縛）

近日來漢城政界に崔益玄、許爲等が排日説[illegible]行して頻りに排日本の思想を鼓吹し崔益玄が如きは日韓議定書及び關款の反對の上疏を捧げ盛んに日本排斥の運動を試ろみ一部雜輩の間に今や排日本熱頗る熾んとなり來り宮中も亦た是等排説の妖言に惑はされて日本を疑ふの意漸く高まり來れるおどふ可日本本紙の報道せる所なるが此形勢は何時までも打ち棄て置くべからざるを以て一昨十日我公使館は外部に對し

●●●崔益玄が近來頻りに日本反對の運動を試むるは日韓兩國の國交を紊亂するものなり速かに官を罷め相當の處分をおふへし又許爲も崔益玄の運動に關係を有するを以て同人をも同時に處分せよ

との意の公文を送りたり此公文は鹽川通譯官自から之れを携へて外部に出頭し協從尹致昊氏に面會して具さに右公文の意味を敷衍し若し韓廷が

今十日の内に崔許二人を處分せざるときは已を得ず帝國の憲兵を以て之を處分すとの意を傳へたるに韓廷は之を對し崔益玄は韓國の名族なるを以て之れを捕縛するお如きは國法の許るさゞる所なりなど曖昧なる回答をなし來り我要求の十日中は二人を處分せざりしを以て一昨十日の夜我憲兵出張し遂に頑老崔益玄許爲の二人を捕縛したり近來の快事といふべし

●金鶴鎭の排日運動

頑老崔益玄を始め第士許爲の徒が日本排斥の運動を試み宮中の歡心を買ひ自家の勢力を恢復せんと企てつゝありし一方に雜輩金鶴鎭なるものあり近時の政界が排日運動に露め稍々色めき渡れるを見て危貨措くべしとなし一昨日排日の檄文を作り國公使に送りて日本の壓迫より発れんとする韓國有士の志を[illegible]み救護の勢を取られたしと申込みたり各國公使は固より之れに耳を傾る模樣なきも雜輩金鶴鎭の徒が斯る大膽の運動を取るに至りし裏面には黑幕となりて援助を與ふる大官もあるやにて現に宮中の一角にも金鶴鎭と連絡を取り暗に助勢を與ふるものありとのことなるが別項の如く排日運動の巨魁崔益玄、許爲の徒にして我官憲の手に捕縛せられたりとせば他の末輩は期せずして閉息するに至るべきなり

●金鶴鎭の捕縛

雜輩金鶴鎭は排日運動を試み居れる由て別項の如くなるが彼れの行動は日韓國交を紊亂するものと認められ彼れは[illegible]手は捕縛せられたり

●露西亞の暗黑（宛然百鬼圖）

▲露國の內部は動亂に次ぐに動亂を以てし其政治的の統規が殆んど地に落ち去りたと謂わるのみならず極まる所其社會的結束を緩くしたかの觀がある

▲或る通信によればワルソウの町では戶の上へ白墨で十字架を畫き又は窓へ聖旗を揭げて置いて一揆の掠奪を防ぐと云ふ有樣で

▲亦其恐ろしき暴擊は寺院の鐘聲をすら沒し去ると

▲數百の商店は破壞せられ倉庫は燒かれ軍隊は此等の暴動人を見るや直ちに砲擊するのである

▲コンな有樣であるから市の秩序は全く紊亂し去つて食物を得るとは頗る困難となりパンの代價は饑饉の時に於けるが如く暴騰し病院は負傷者の爲めに夜を日に繼ぎて忙殺せられつゝある

▲又他の通信によれば婦人の如きは非常に憐むべき有樣で憔悴し果てた面には一痕の血色もなく唯眼ばかりギヨロッとして涙をにじませ呆然として立つて居るのである

▲市内は一般に戰心の有樣にあり食物を得るの困難より婦人でさへ實際餓渴しつゝあるのだ

▲市内へ這り込まるゝもンは何な者でも一封度二拾八錢を價し若し少しでも兵力が弛むだならば暴動は忽ち反復せらるのである

▲而して捕へられた暴動人は何れも長きナイフや鐵砲を隱し持つて居つて公然軍隊に對して狙擊するから仕方がないので夜にならと総ての機會を利用して狡猾な手段を加へつゝあるので市民は街路を通行するとを恐れ銃丸の危險を冒すよりは寧ろ饑へた方が善いと言である

▲多くの人々は自暴的に危險の渦中に投入し殊に中流や下等社會の若き婦人の如きは好んで砲彈に身を投ぜんとするの傾あり拾八歲の一少女の如きは敢て自から彈丸雨下する所に立つたのである

▲警察官は暴動者の死體を運搬するに苦しんで居る有樣であるのと云ふ事だ

●韓人疾病治療談（面白きはなし）

韓人は一般に日本藥の効能殊に外科術の効き目は尤も信用して居る方であるけれど醫師的の觀察は[illegible]如何で[illegible]た者が多いから今でも[illegible]無効藥を高價に賣付けて[illegible]商者が入込んで色々な事を[illegible]中々信用しないです[illegible]店で[illegible]てで[illegible]

[illegible]

近頃は中々韓人に能く賣れるそうです近來韓人の醫術は非常の進步を以て日を逐ふて月を追ふて進步して居られる樣です近來は韓人を診察して追々服藥も撰ぶるでしようから又醫師は藥を賣らぬが藥屋では病人を診察しますから何とも仕方が分らないです一寸話れば醫藥分業の樣ですがマサカそうでもありません韓國の婦人ですが未婚者又上流の婦人は醫者に手を觸れさせません是非診察を要する時には窓の內外で手脈を觸れて見るのですから朝鮮の婦人の病氣の事は決して見せませんですから朝鮮で病人を診察するときは大概容體を聞いて藥を調合して遣るので[illegible]

[illegible]

●出刃騷ぎ（後の日）

[illegible]

●佐須土原の相撲（三月十日）

[illegible]昨日は前日來しの雨損續にて觀客諸君も二の足踏みたるか入場者多くなく何となく淋しき心地せり

勝 / 負

勝		負
大江形		大木戸
岩ヶ渡		招川
大定		桂技
八ッ橋		梅ヶ渡
高千穗		淵ヶ渡
楯甲		鶴ヶ森
一力（かし）		玉川
一ッ引（かし）		淵渡
大江山（かさ）		鶴ヶ嶽

中入

[illegible]

有馬山（かし）大龍 / 有馬山（わけ）淵ヶ渡 / 六番外

お好

[illegible]

●芝居だより

●草塚 觀葉嫁は目下八十餘名に達し居り猶ほ益々增加せんとするよし

松井座本日の藝題は源平布引瀧大序より實盛物語まで

日本郵船會社 瀛船釜山出帆廣告
仁川芝罘大沽牛莊行 日東丸 三月十八日
木浦川仁鎭南浦行 ヲハヨー號 三月十四日
荷客取扱所 同 大池回漕店

大阪商船會社 汽船釜山出帆廣告
木浦仁川鎭南浦行 天照丸 三月十六日 三月二十一日 / 義州丸 三月十九日 三月二十四日 / 漢城丸 三月二十一日 三月二十六日 / 群山丸 三月二十三日 三月二十八日
仁川鎭南浦行 ハイキンク 三月十五日 二月十一日
馬山浦木浦群山行 多摩川丸 三月十八日 二月十三日
下關神戸大阪行 漢城丸 三月十五日 二月十二日 / 蒼龍丸 三月十七日 二月十二日 / 肱川丸 三月十七日 二月十二日 / 琴平丸 三月十八日 二月十三日 / 群山丸 三月十九日 二月十四日 / 安東丸 三月二十二日 二月十七日 / 多摩川丸 三月二十四日 二月十九日 / ハイキンク 三月二十六日 二月二十一日 / 蒼龍丸 三月二十六日 二月二十一日 / 天照丸 三月二十九日 二月二十四日 / 義州丸
長崎厳原博多下關神戸大阪行 三取川丸 三月十七日午後十時出帆
元山行 蒼龍號 三月廿二日 二月十七日
沿岸線 瑞鷹丸 仁川群山間每週三回往復
大阪商船株式會社

朝鮮海通漁株式會社 瀛船釜山出帆廣告
定期連絡汽船 若津丸 三月十五日午後六時 嚴原唐津行(九州鐵道ニ連絡ス)
荷客取扱店 中上回漕店方 國中商店

八頭司瀛船釜山出帆廣告
萬歳丸 三月十五日 木浦仁川行
山陽丸 三月十五日 馬山浦行
馬山浦丸 但シ午后二時出帆 荷物ハ切午前十時
八頭司瀛船部

濱商會 瀛船釜山出帆廣告
大阪行 京畿丸 三月十八日 二月十三日

慶尚號 三月十八日 元山行 仁川鎭南浦 二月十三日
慶寶丸 元山行 航海中
泰盛号 三月十四日 二月九日 仁川群山間就航中
正成丸
堀商會代理店 釜山代理店 本町海岸郵便局前 山川回漕店

池田汽船 松前丸 三月十五日 仁川直行 二月十日
幸光丸 月 日
野村汽船 寧靜丸 朝鮮仁川行 仁川芝罘 航海中
貫効丸 同
釜山港 荷客元扱 本町通海岸郵便局前 山川回漕店 電話一七八番

大阪尼崎瀛船釜山出帆廣告
下關神戸大阪行 太湖丸 三月十五日
鎭南浦行 神代丸 三月十五日 二月十日
仁川行 第二崇敬丸 三月十八日 二月拾三日
仁川行 大有丸 三月二十日 二月十五日

大阪絹川丸瀛船出帆廣告 大池回漕店

錦龍丸 三月 日 行
瀛船釜山出帆廣告

第八永田丸 三月十五日 二月拾日 鎭南浦行
世昌洋行瀛船 神戸大阪行 ダクマル號 二月 日
仁川膠州灣行 スルベルグ號 三月二十日 馬關神戸行
釜山運輸組瀛船 第四共同丸 三月十六日 馬關神戸大阪行
神永回漕店 (電話貳百貳拾七番)

第四共同丸 第五永田丸 三月十五日 下關大阪行
釜山運輸組 (電話百二十七番)

世昌洋行汽船出帆廣告
門司神戸大阪行 ダクマル 三月 日 午後五時出帆
仁川灣行 スルベルグ 三月二十日 午後五時出帆
世昌洋行汽船元扱店 齋藤回漕部

瀛船釜山出帆廣告
元山行 防長丸 三月十八日
元山行 浦門丸 三月十六日
荷客取扱店 三木回漕店 電話八三番

廣告

古着古道具刀剣古書畫並ニ金銀賣買 質屋
其外何品ニテモ高價ニ買受ベク候 西町三丁目石川醫院西隣 鈴木商店

各種時計保險附修繕並ニ附屬品 迅速叮嚀廉價ヲ主トス
釜山港西町三丁目一番地 嶋田旭賞堂

活版印刷 釜山南濱 日本堂

雜貨品御用達 防水布具一式 洋服裁縫及販賣 空氣枕水枕製造
大日本小倉市京町三丁目
陸軍御用達 マルマ商會

西洋御料理 玉突場 Restaurant.
釜山幸町一丁目 小倉庵 電話一一五

精白米廉價販賣
石炭米穀 綾實住候 南濱町海岸通四ツ角 西原商店

唐津石炭 辨天町一丁目 國安商店 電話一七一

丁寧親切 南濱地六番町 柳井旅館

株式會社第五十八銀行 釜山支店 (電話五十八番)
為替取組先 東京 大阪 京都 横濱 名古屋 伏木 敦賀 富山 銚子 尾ノ道 兵庫 神戸 姫路 米子 宇和島 柳井 岩國 庭瀬 萩 下ノ關 廣島 倉敷 門司 福岡 伊萬里 長崎 博多 唐津 京城 知須 防府 仁川 小郡 其他一般の銀行業務は總て便利取扱可申候

迅速 成 寫眞 釜山南濱通 日朝寫眞館

材木建具廉價販賣 富平町精米所側 平松商店

株式會社第一銀行支店 (電話一番)
一資本金壹千万圓
一積立金百七十万圓
明治六年設立
本店 東京
支店出張所 取扱 頭取 澁澤榮一
京城 仁川 木浦 群山 元山 大邱 神戸 大阪 横濱 名古屋 …

諸預り金為替貸金其他銀行一般業務多小ニ不拘御便利御取扱可申候

磨擦米廉價販賣 富平町 岡本商店 (電話三拾一番)

寫眞撮影 釜山辨天町 平井寫眞館
釜山各地各鐵道幹ハ風俗各種アリ

板材木廉價販賣 其他石炭竹瓦 島末商店 南濱海岸

青物乾物砂糖麥粉 西町一丁目 遠藤商店 (電話架設中)

卷煙草 刻煙草 各種石鹼 銘茶 歯磨類 麻裏草履 石鹼 卸小賣共(大勉强)
宇治銘茶 南濱小倉庵前 宇中商店

諸新聞大賣捌
大坂毎日新聞 一ヶ月四十八錢
萬朝報 一ヶ月卅錢
電報新聞 一ヶ月廿五錢
右迅速正確配達仕候也尚大阪毎日ハ郵便ヨリ一日早着仕候
幸町一丁目三番地 山口新聞舗

獸醫 富平町拾七番地 中尾祐作 電話四拾四番

おしろゐ化粧水 新形花札かるた才類 錢入袋物 香水香油 石鹼類 其他足袋麻裏雜貨小間物一切
釜山西町三丁目 諸品問屋 百 明治屋

純良牛乳 富平町二拾四番地 配達迅速便利 稻尾牛乳店

家屋は新築清潔よ 眺望は風光明媚よ 勉强旅館 取扱は親切丁寧に
京釜鐵道沿線 三浪津河岸 龜屋

東京御料理麥とろ 南濱海岸通り あそひ (電話二四四)

活版印刷 朝鮮諸文活字あり 廉價迅速 鄭寧 釜山西町二丁目郵便局裏 立志社

清酒櫻正宗 酒櫻魂 西町三丁目 上西酒店 (電話 番)

三印醤油 風味 最良 釜山北濱通 水野巖商店

血を増し肉を肥し胃を健にする 強壯的飲料は本品に如くものなし
蜂印葡萄酒
韓國一手輸入元 合 釜山幸町二丁目 齊藤支店 (電話番號一四四)

萬小間物類 並ニ石鹼足袋 下駄糸化粧品類 右卸小賣共 致候安價販賣 深中通り 藤井商店

歐米時計各種 附屬品 色々 電氣メッキ 金銀赤銅 ニッケル 年度保險付 幸町一丁目 園田時計店 (電話二〇番)

東京そば 東庵

陸軍御用 釜山罐詰所共製品 滋養牛肉ソップ (一合代弐錢) 南濱二十八番地海岸通 平田秀吉

勉强御下宿 南濱一十八番地海岸通 伊豫屋

新古たんす製造賣買 並み、表緣商 西町三丁目 丹原商店

調劑所 處方調劑ノ依頼ニ應ス 釜山本町 弓削靈藥館

◎東京日々新聞 ◎報知新聞 ◎大阪新報 ◎萬朝報 ◎朝鮮日報 ◎二六新報 ◎大阪朝日新聞 ◎大阪毎日新聞 ◎朝鮮日報 ◎日韓新報 ◎朝鮮新報 ◎日露戰記
朝鮮唯一の大新聞 朝鮮日報 一日三頁掲載 配達快速
廣告印刷大勉强取次
大邱方面一手特約販賣所 朝日商會



利用者は强く特色の本店
森田商店 電話四九七
大阪市南區安堂寺橋通 入南町寺坂 鹿眞 和漢洋各種藥品 賣捌
大阪道修町 …

京城泥峴一號地ニ滯在シテ契約起訴民刑訴訟等凡テ法律事務ヲ取扱フ
東京辯護士會 辯護士 皆川廣濟

齒科專門 共生醫院假治療所 本町南一通上田商店前 和田野醫院ヨリ五軒目

東京大慈本店 印香龍葡萄酒 賣捌所 梁大慈支店 粟谷出張店 釜山本町 萩野店 仁川 土井

商標 旅館 伊豫大洲 釜山港南濱町支店 野茂

御旅館和洋御料理並ニ 附属牛肉搾取 日本屋建築 大邱東門外 停車場前 達城館

一貨物… 中上回漕店 (電話 番)